

「水イボについて」

白石皮膚科医院
白石 正憲
若松区二島 5 1 - 42
TEL : 772 - 5012

皮膚科にはイボができたと言って多くの患者さんが来られます。一口にイボといっても、ウイルス性のイボ、血管腫、良性腫瘍や悪性腫瘍など、いろいろな病気が含まれています。その中で、保育園や幼稚園で話題となっている水イボについて書いてみます。

水イボはウイルスが原因です。おもに、幼児期に発生し、アトピー性皮膚炎との合併も多く見られます。からだのどの部分にもでき、色は正常皮膚色や淡紅褐色で、表面が滑らかなドーム状の小さな腫瘤です。典型的なものでは、中心にへそのような凹みが見られます。自覚症状は無いが、あっても軽い痒み程度です。直接的、間接的接触により他人に感染しますが、引っ搔くことにより本人にも多発します。感染経路としては、保育園、幼稚園、学校などでの集団生活や家庭でのタオルの共用、プールでのビート板の共用などが多いと言われています。潜伏期は 2 週間から 2 ヶ月と考えられており、放置しておいても自然に治ります。ただし、治癒までには 6 ヶ月から数年を要し、もちろん、その間、本人にも多発する可能性があり、他人への感染源ともなります。

治療は一般的には 自然治癒するまで放置しておく。ピンセットなどで摘除する。その他外用療法などがあります。どの治療法が最良であるかは、意見の一致を見ておりません。私自身は、多発していない場合は、摘除を勧めています。というのも、このイボは自然に消退するものではありませんが、前述のように自分にも他人にも感染し、また、アトピー性皮膚炎などの治療のさまたげとなるからです。放置しておいて増えるようであれば摘除するという考え方もありますが、摘除には疼痛を伴いますので、数が少ないうちに治療するほうが良いと思っています。ただし、不幸にしてすでに多発している場合、泣叫ぶ子供を押さえつけ、血まみれにしてまで摘除はできず、自然消退を待つことにしています。

以上、水イボについて書きましたが、水イボを疑った場合は、いろいろな治療方針や治療方法がありますので、なるべく数が少ないうちに専門医へ受診することをお勧めします。